

I. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

現代の世界経済が通信技術や輸送技術の進歩によって「グローバル化」され、国境を越えた均一なシステムに組み込まれつつあるというのは紛れもない事実であろう。しかし、古代から商業活動が地域や宗教を越えて行われ、歴史を動かしてきたことも否定できない。とりわけ香辛料は特定の地域でしか産出されず、価値ある交易品として古くから盛んに取引されてきた。

中世のヨーロッパで香辛料交易の覇権を争っていたのはイタリアの都市国家だった。とくに、カイロを首都とする (1) (2) 朝と手を結び (3) (4) 海との交易路を確保したヴェネツィアと (5) (6) 海周辺の植民地を拠点にしたジェノヴァが覇権争いを繰り広げる。しかし、この時代の交易はまだ、ムスリム商人によってアレクサンドリアやキプロス、コンスタンティノープルなどに運ばれた香辛料を買い取る中継貿易でしかなかった。

15世紀初頭、ポルトガルがエンリケ航海王子の主導によりキリスト教の拡大を正当化の根拠としながら南下政策をとり始める。ジョアン2世治世下の1488年に (7) (8) が喜望峰を発見したことによって、ポルトガルは南回り航路でのインド到達を目指すようになる。1498年、 (9) (10) がインドの (11) (12) に到達した。当時のインド洋交易はムスリム商人が支配していたため、 (9) (10) は交易ネットワークに新規参入することの難しさに直面した。このため、ポルトガルは海軍力を行使して交易、戦略上の拠点を制圧し商館や要塞を建設していく。同国はペルシア湾の入口に位置する交易拠点 (13) (14) を制圧し、ムスリム商人の香辛料積載船を攻撃、略奪してペルシア湾や (3) (4) 海へのルートを遮断しようとした。このため中東を経由してイタリアの港まで香辛料を運ぶ交易ルートは大きな打撃を受けた。副王アルブケルケは1510年に (15) (16) を占領、1511年には (17) (18) を制圧し、(あ) 諸島のクローブやナツメグを独占した。その後、シナモンの産地セイロン島の(い)も重要な拠点となった。また、1557年に (19) (20) 居住の許可を得た後は、中国の生糸や金と日本の銀を取引する中継貿易でも収益をあげるようになる。こうして、ポルトガルが仲介者を経ずに香辛料を獲得できるようになっただけでなく、ヨーロッパ人による商業活動の舞台が一気に拡大していく「大航海時代」が始まった。

一方、スペインはヴェルデ岬西方の (21) (22) 線を境界とする (23) (24) 条約により西回り航路でインドを目指した。アステカ帝国やインカ帝国を征服したスペインは (25) (26) を援助して西回り航路を開拓した。一行が(あ) 諸島から香辛料を持ち帰ったため、ポルトガルとの間に(あ) 諸島の領有権問題が生じたが、35万ドゥカードと引き換えに領有権を放棄する (27) (28) 条約を結ぶ。1565年にはレガスピがフィリピンの領有を宣言し、スペインは(う)と (29) (30) を結ぶ太平洋交易を展開した。また、バレー副王領で発見された (31) (32) 銀山などから大量の銀がヨーロッパやアジアにもたらされ、 (33) (34) と呼ばれる急激な物価の高騰を引き起こした。

16世紀末にはオランダがインド洋に進出する。資本家から直接資金を調達する東インド会社を設立し、 (35) (36) を拠点に香辛料交易を展開した。1623年に(あ) 諸島から_(a)イギリスを排除、1641年には (17) (18) を占領しポルトガルを排除してクローブやナツメグの独占交易体制を打ちたてた。1656年にはポルトガルが拠点としていた(い)を陥落させ、シナモンの貿易を独占する。また、ジャワ島中部から東部にかけての (37) (38) 王国やジャワ島西部の (39) (40) 王国を監督下に置き、インドネシア全域から他のヨーロッパ人を排除して貿易を独占した。

こうした一連の流れは、ヨーロッパにおける遠隔地貿易の中心が地中海から大西洋に移る (41) (42) のきっかけとなった。このような歴史の認識は現代の国際政治および経済を理解するためにも有益なものとなるだろう。生産拠点の限られた資源が政治や経済に大きな影響を与えるというのは、現代でも石油や (b) レアメタル の獲得競争において繰り返されているからだ。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (41) (42) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の解答欄 (1) ～ (42) にマークしなさい。

- | | | | |
|--------------|----------------|----------------|---------|
| 11 バンテン | 12 バルト | 13 子午 | 14 回帰 |
| 15 ホルムズ | 16 マタラム | 17 アチェ | 18 カブラル |
| 19 黒 | 20 クメール | 21 商業革命 | 22 アデン |
| 23 マゼラン | 24 サラゴサ | 25 カボット | 26 ナスル |
| 27 ヴァスコ＝ダ＝ガマ | 28 アメリゴ＝ヴェスプッチ | 29 バルトロメウ＝ディアス | |
| 30 テノチティラン | 31 リマ | 32 カリカット | 33 紅 |
| 34 マジャパヒト | 35 マムルーク | 36 香港 | 37 カルカタ |
| 38 コロンブス | 39 ポトシ | 40 緯 | 41 白 |
| 42 トルデシリャス | 43 台湾 | 44 クスコ | 45 産業革命 |
| 46 マカオ | 47 ゴア | 48 ウマイヤ | 49 メディナ |
| 50 ピレネー | 51 価格革命 | 52 アカプルコ | 53 マラッカ |
| 54 サンサルバドル | 55 メディナ | 56 ボンベイ | 57 南ドイツ |
| 58 パレンバン | 59 パリ | 60 トウンゲー | 61 アユタヤ |
| 62 バタヴィア | 63 黄 | | |

問2 文中の空欄 (あ) ～ (う) に入る語の組み合わせで正しいものを以下の1～4の中から選び、解答用紙A（マークシート）の解答欄 (43) にマークしなさい。

- | | | |
|------------|----------|----------|
| 1 (あ) マニラ | (い) コロンボ | (う) モルッカ |
| 2 (あ) モルッカ | (い) コロンボ | (う) マニラ |
| 3 (あ) コロンボ | (い) マニラ | (う) モルッカ |
| 4 (あ) モルッカ | (い) マニラ | (う) コロンボ |

問3 次の文中の空欄 (え) に入る数字と (お) に入る語句をそれぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

本文中の (19) (20) は (え) 年にポルトガルから返還され、現在、社会主義国の中で資本主義体制を保障する枠組みである (お) が適用されている。

問4 下線部 (a) について、この事件の結果、イギリスのアジア進出のあり方はどのように変化したか。解答用紙Bの所定の欄に30字以内で説明しなさい。

問5 下線部 (b) について、そのなかには「希土類元素」とも呼ばれる、携帯電話やパソコンなどの製造に不可欠な資源が含まれている。(ア) その資源の別称はカタカナ5文字で何か。(イ) その資源の年間生産量が2011年時点で世界最大の国はどこか。それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

Ⅱ. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

ヨーロッパにおいて民族大移動が起こると、スラヴ人の一部は南下し、南スラヴ人と総称された。ゲルマン人の諸王国に席卷された地域とは異なり、当時の南スラヴ人の移住地域は、先進の文化・商業・学問を誇る (44) (45) が支配する地域だった。それゆえ、南スラヴ人の多くは、同国に支配されたり、逆に領土を奪ったりしつつ、同国の宗教である (46) (47) を受け入れていった。ただし、南スラヴ人のうち、(48) (49) 人と (50) (51) 人は、フランク王国の近接地に居住したため、その圧力により (52) (53) を受け入れた。その後、前者は (54) (55) に、後者は神聖ローマ帝国に、それぞれ従属した。やがて、^(a) 小アジアよりオスマン帝国が興ると、南スラヴ人たちの大半は、およそ500年の間、その支配下に入った。その影響で、南スラヴ人の一部は (56) (57) を受け入れた。

19世紀以降、オスマン帝国の弱体化に伴って、支配下の南スラヴ人たちの間で民族独立運動が激化した。これをロシアが支援する形で勃発した1877年から1878年にかけての露土戦争において、オスマン帝国は完敗し、イスタンブールに程近い (58) (59) で結ばれた条約によって、セルビアやモンテネグロなどの独立、(60) (61) やブルガリアの自治などが認められた。その後、オーストリア＝ハンガリーが (62) (63) に伴う混乱に乗じて (60) (61) を併合すると、セルビアは、これを激しく非難した。この対立は、(64) (65) 事件の引き金となり、両国のみならず多くの国々を巻き込む大戦に発展した。この世界大戦の結果、オーストリア＝ハンガリーは解体し、セルビアは、^(b) 南スラヴ人統一国家、「セルビア人・(48) (49) 人・(50) (51) 人王国」、のちのユーゴスラヴィアの建国を実現させた。ただし、セルビア人主導の国家運営に対して、他の民族の国民からあがる不満の声も大きかった。

二度目の世界大戦が勃発すると、ユーゴスラヴィアはドイツ・イタリアなどの侵攻を受けて解体させられ、大戦中、南スラヴ人同士が対立しあう事態に陥った。そうした中、抵抗組織 (66) (67) が活躍し、東ヨーロッパで唯一、ソ連を頼らずに祖国解放を成し遂げた。こうしてユーゴスラヴィアは社会主義国として再建されたが、東西冷戦下、ソ連の衛星国化を拒否して (68) (69) からの除名を受け、^(c) 独自路線を打ち出した。

1980年代、カリスマ的指導者 (70) (71) が死去し、また、東ヨーロッパ諸国に民主化の波が押し寄せると、ユーゴスラヴィア国内の民族的・宗教的・経済的対立がいよいよ深刻化した。そして1991年、ついに、(50) (51) および (48) (49) ,そしてマケドニアの3国が相次いで独立を宣言した。マケドニアは無血で独立を果たしたものの、(50) (51) は10日間、(48) (49) は1995年までの長期にわたる武力衝突を経験することとなった。さらに、(60) (61) も1992年の独立宣言後、1995年まで、周辺諸国やNATOを巻き込みつつ (46) (47) , (52) (53) , (56) (57) という異なる宗教の信者間で三つ巴の内戦を繰り広げた。相次ぐ離脱によって規模を縮小させつつも再出発した新ユーゴスラヴィアであったが、最終的には、2006年にモンテネグロがセルビアから分離独立したことによって解体し、南スラヴ人統一国家は消滅した。さらに、(72) (73) 人が多く居住するセルビアの自治州、(74) (75) が、凄惨な紛争の末、2008年、セルビアからの独立を宣言して、現在に至っている。

問1 文中の空欄 (44) (45) ～ (74) (75) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の解答欄 (44) ～ (75) にマークしなさい。

- | | | | |
|----------------|-------------|------------------|-------------|
| 11 キエフ公国 | 12 ノヴゴロド国 | 13 モスクワ大公国 | 14 ティムール帝国 |
| 15 西ローマ帝国 | 16 ヤゲウォ朝 | 17 マジャール | 18 ビザンツ帝国 |
| 19 ドイツ | 20 プロイセン | 21 ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ | |
| 22 オーストリア | 23 ハンガリー | 24 アルバニア | 25 ルーマニア |
| 26 ギリシア | 27 クロアチア | 28 スロヴェニア | 29 スロヴァキア |
| 30 チェック | 31 コミンフォルム | 32 ネップ | 33 パルチザン |
| 34 コミンテルン | 35 コメコン | 36 マーシャル＝プラン | 37 ヨーロッパ共同体 |
| 38 ヨーロッパ経済協力機構 | | 39 第二インターナショナル | |
| 40 ワルシャワ条約機構 | | 41 エジプト＝トルコ戦争 | |
| 42 イタリア＝トルコ戦争 | | 43 トルコ革命 | 44 ウラービーの反乱 |
| 45 青年トルコ革命 | 46 クリミア戦争 | 47 レジスタンス | 48 サライェヴォ |
| 49 コソヴォ | 50 サン＝ステファノ | 51 サン＝ジェルマン | 52 ネルー |
| 53 ナセル | 54 ロカルノ | 55 スカルノ | 56 ティトー |
| 57 コプト派 | 58 ゾロアスター教 | 59 ユダヤ教 | 60 ヒンドゥー教 |
| 61 ギリシア正教 | 62 イスラーム教 | 63 ローマ＝カトリック | |

問2 下線部（a）について、（ア）南スラヴ人の若者たちは、オスマン帝国による他の被支配地域の若者たちとともに、帝国軍に強制徴用された。この制度のことを何と呼ぶか。（イ）彼らが活躍した歩兵軍団とは対照的に、オスマン帝国伝統の騎馬軍団のことを何と呼ぶか。それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問3 下線部（b）について、次の文中の空欄（あ）～（え）に入る語句をそれぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

南スラヴ人統一国家ユーゴスラヴィアには、本文中の建国当初の国名が示すとおり、ブルガリアが含まれていない。それは、ブルガリアが、民族独立運動期に、（あ）を結成してセルビアなどと共にオスマン帝国と戦ったものの、その後、（い）の問題を巡って対立し、セルビアなどと（う）戦争を起こして敗北したため、第一次世界大戦では（え）国の一員としてセルビアに侵攻したという経緯に由来する。

問4 下線部（c）について、1961年9月、ユーゴスラヴィアは、東西いずれの陣営にも属さない国々の代表者を首都ベオグラードに招いて、第1回非同盟諸国首脳会議を開いた。（ア）その当時の米ソ首脳はそれぞれ誰か。（イ）会議直前に起こった東西冷戦を象徴するこの年の出来事は何か。それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

清朝の前半は比較的安定した支配が続いたが、後半になると、さまざまな危機的状況が生じた。それに伴って、二度にわたる改革が試みられた。それらの歴史を振り返ってみよう。

18世紀末、清朝は、人口が爆発的に増えた一方、産業化が遅れたため、農民の貧困化が進行した。それが官僚の腐敗や貧富の差の拡大とあいまって、1796年に起こった (76) (77) をはじめ農民の反乱が続発し、清朝の統治力は弱体化した。この頃、西洋諸国との貿易港は (78) (79) に限られていたが、貿易拡大をめざすイギリスはさらなる開港を迫った。イギリスは1793年にマカートニーを清に派遣したが、不成功に終わり、さらに1816年、(80) (81) を使節として派遣したが、(82) (83) に謁見できずに帰国した。結局、清から中国茶を輸入していたイギリスは、インドに (84) (85) を輸出し、インドで手に入れた (86) (87) やアヘンを清に運んで売ることによって、三角貿易を成立させた。その結果、(a) 清ではアヘンの吸飲がひろがり、様々な社会経済的問題が発生した。そこで、清は (88) (89) を広東に派遣して、アヘンの取り締まりを行った。それに対して、イギリスは武力で自由貿易を認めさせようと画策し、1840年にアヘン戦争を起こした。(b) 清は惨敗し、5港の開港や賠償金支払いなどを定めた南京条約を結んだ。しかし、貿易を期待したほど拡大させられなかったイギリスは、アロー戦争を起こし、(90) (91) 軍と共に北京を占領して清朝を降伏させ、(92) (93) の一部割譲と11港の開港、アヘン貿易の合法化などを清朝に認めさせた。

アヘン戦争とアロー戦争の敗北を受けて、清朝では西洋の科学技術の導入ならびに富国強兵を進める運動が起こった。この運動は、(94) (95) ら地方長官の地位を得た漢人官僚たちが中心となって進められた。彼らは民間の資本を国家の管理のもとで運用して、鉱山の開発や製鉄所の建設、インフラの整備、西洋式軍隊の編成を行った。(c) 運動の中心人物たちは中国の伝統文化を温存しながら、西洋の技術を摂取するという理念のもとで体制の変革を避けた。この理念の先駆者といわれる (96) (97) は、アヘン戦争後に著した世界の地理や情勢に関する書物のなかで、「夷を以って夷を制す」という思想を主張した。運動は一定の成果をあげたものの、王朝体制の改革や伝統文化からの脱却を遂げられず、しかも、官僚による企業の私物化や官民癒着、軍閥の肥大など多くの弊害をもたらした。

この改革が失敗に終わったことは、後に、相次ぐ戦争の敗北によって明らかになった。清は、日本の琉球処分に対して手を打てず、清仏戦争に敗戦して (98) (99) に対する宗主権を放棄した。そして、1894年に勃発した日清戦争にも敗戦し、朝鮮に対する宗主権の放棄、遼東半島・台湾・澎湖諸島の割譲、多額の賠償金支払いなどを定めた下関条約を結んだ。日清戦争の敗北という衝撃のなか、日本の明治維新にならって抜本的な制度改革を主張する勢力が台頭し、立憲君主政の樹立を意図して (100) (101) が推進された。改革の中心人物であった (102) (103) は、実際の政治と結びつく理念を重視する (104) (105) の立場をとって、政治の改革と国家の再生を試みた。彼らは、(106) (107) の信任を得て一時政権を握ると、直ちに様々な改革に着手した。しかし、保守派は運動に対して激しく反発し、1898年9月にクーデターを起こした。(106) (107) は監禁され、改革の主要人物も国外へ亡命し、運動はわずか数か月で挫折した。さらに、この頃、列強による中国分割が進み、民衆の不満は高まり、革命諸勢力の台頭につながっていった。

問1 文中の空欄 (76) (77) ～ (106) (107) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の解答欄 (76) ～ (107) にマークしなさい。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 11 咸豊帝 | 12 同治帝 | 13 光緒帝 | 14 西太后 |
| 15 雍正帝 | 16 乾隆帝 | 17 嘉慶帝 | 18 道光帝 |
| 19 太平天国の乱 | 20 白蓮教徒の乱 | 21 天理教徒の乱 | 22 三藩の乱 |
| 23 新疆 | 24 タイ | 25 ヴェトナム | 26 ミャンマー |
| 27 魏源 | 28 戴震 | 29 李鴻章 | 30 章炳麟 |
| 31 黄宗羲 | 32 張居正 | 33 顧炎武 | 34 林則徐 |
| 35 洪秀全 | 36 康有為 | 37 孫文 | 38 宋教仁 |
| 39 広州 | 40 上海 | 41 天津 | 42 香港 |
| 43 ジョン=ヘイ | 44 ゴードン | 45 ウォード | 46 アマースト |
| 47 陽明学 | 48 考証学 | 49 公羊学 | 50 朱子学 |
| 51 山東半島 | 52 紅茶 | 53 綿花 | 54 九竜半島 |
| 55 黒竜江以北 | 56 絹織物 | 57 毛織物 | 58 綿織物 |
| 59 変法運動 | 60 仇教運動 | 61 辛亥革命 | 62 洋務運動 |
| 63 アメリカ | 64 フランス | 65 ポルトガル | 66 ロシア |

問2 下線部（a）について、次の文中の空欄（あ）～（お）に入る語句をそれぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

1834年に（あ）会社の中国（い）権が廃止されると、アヘンの流入がさらに増加した。清朝から（う）が大量に流出して、その価格が高騰する一方で、民衆は収入を（え）によって受け取っており、納税の際には、それを（う）に換算する必要があったため、（お）と呼ばれる税金不払いの風潮も蔓延した。

問3 下線部（b）について、南京条約以降イギリスなどはまず上海に清の警察権、司法権などの及ばない居留地を設置した。その後、同様の居留地が各地に設けられた。（ア）上記のような場所はこの時代、漢字2文字で何と呼ばれたか。（イ）外国に居住する者が、居住する国の裁判権に拘束されない特権を漢字4文字で何と呼ぶか。それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部（c）について、（ア）この運動理念を何と呼ぶか。（イ）文中の書物の名称は何か。それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

2013(平成25)年度 商学部 問題訂正

教科・科目	誤	→	正
世界史	p.3 I 問1 語群「55 メディナ」	→	削除
日本史	p.5 II[A] 語群「30 宋」	→	p.5 II[A] 語群「30 宗」